

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月5日作成)

小委員会名	UR 集合住宅団地・保存活用小委員会	主 査 名：松村 秀一 就任年月：2019 年 10 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：清家 剛
設 置 期 間	2019年 10 月 ～ 2026年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>独立行政法人都市再生機構の委託事業（当初4年間。更に3年延長）を実施するために設置する委員会である。同機構では、都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設を旧赤羽台団地に整備することの検討を進めている。</p> <p>初年度：歴史的文化的価値を踏まえた保存住棟の活用方針・方策の整理 2年度：保存住棟を活用した、新たな暮らしに関する情報発信の企画検討 3年度：鉄筋コンクリート造集合住宅の歴史、及びその背景となった生活・文化、まちづくりの変遷に関する学術的検証 4年度：4年間の検討の取りまとめ 5年度（2023）：情報発信施設開館に伴う保存住棟の活用実践</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：松村 秀一（早稲田大学） 委員：井本 佐保里（日本大学）、海老澤 模奈人（東京工芸大学）、大月 敏雄（東京大学）、栢木 まどか（東京理科大学）、熊谷 亮平（東京理科大学）、志岐 祐一（日東設計事務所）、富岡裕史（UR都市機構）、田島 則行（千葉工業大学）、宮崎 晃吉（HAGISTUDIO）</p>	
設置WG (WG 名：目的)	<p>企画WG：情報発信施設として、希少な保存住棟及び既存施設の望ましい活用方策を検討する。 歴史・文化WG：展示・説明する「集合住宅の歴史、及びまちづくり」に関する学術的検証を行う。</p>	
2023 年度予算	委託研究	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	委員会：3回 企画WG：3回 歴史・文化WG：1回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 団地大学サロンVol. 1 参加者数 20名</p> <p>2. 団地大学ワークショップ「スターハウス、そして赤羽台団地の再生」 参加者数 16名</p> <p>3. 東京文化財ウィーク2022特別公開 (登録有形文化財旧赤羽台団地スターハウスほか4住棟) 参加者数161名</p> <p>4. 団地大学サロンVol. 2 参加者数 21名</p>
大会研究集会	<p>PD：文化財になった住宅団地の保存と活用 —UR旧赤羽台団地の経験を通して「現地」で考える 参加者数 153 名</p> <p>『建築計画部門パネルディスカッション資料：同上』 [PDF]</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 歴史的文化的価値を踏まえた保存住棟の活用方針・方策整理及び再生整備監修</p> <p>2. 保存住棟の特別公開及び関連企画実施を通じた、小委員会活動（文化財建物の保存活用）の情報発信</p> <p>3. RC造集合住宅の歴史・変遷等、情報発信及び展示内容に関する学術的検証並びに監修（ミュージアム棟展示への実装）</p>
委員会活動の問題点・課題	